

宮城県立こども病院産科の室月淳です。4月25日より気仙沼市立病院への応援に行ってきましたので簡単にご報告申し上げます。

先週末で気仙沼市立病院への日本産婦人科学会の支援が終了しましたので、そのあとを引き継ぐ形で、大学病院産婦人科と調整しながら当科の医師がときどき応援に行くことになりました。わたしと交代で今は佐藤聡二郎先生が行っています。

気仙沼市立病院は、ご存じのように小高い丘の上に建てられていたおかげで、ギリギリ津波による被害を受けないですんだそうです。ちょうど桜が満開の時期でした（写真1）。

写真1



気仙沼市の町中もだいぶ片付いてきたとのことですが、港近くまで行くと瓦礫が山のように積まれていて、津波の被害の傷跡はいまだに生々しい状態です（写真2）。大型の漁船が陸の上に乗上げており、津波のパワーのおそろしさに驚かされました（写真3）。

写真2



写真3



病院の業務はほぼ通常の状態に戻っているようですが、分娩を取り扱っていた市内の開業診療所がそのまま休院になった分だけ、分娩や外来の数はかなり増えているようです。常勤医はふたりのみで、それも卒後9年目と5年目というとても若いコンビであり、だからこそ震災後もまったく休みなしにバリバリと働いてきました。臨床的にもかなりできる若手たちです。

しかし本当にたいへんなのはこれからなのだろうと思います。これまではみなが必死になって働いてきて何とかなってきましたが、実際に震災後のさまざまなストレスでまいってしまった医師も出てきているようです。

幸いなことに当院産科には、成育医療センターのご好意により4・5月にかけて当科に人的支援をいただくことになっています。その分の余力でわれわれが気仙沼など外の病院の応援に交代で行くつもりです。周囲の方々にいろいろとご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、何とぞよろしくお願い申し上げます。

室月 淳

宮城県立こども病院産科

東北大学大学院医学系研究科胎児医学分野